

# 分科会 8

## リカバリーを促進する治療ガイドラインの活用

司会： 加藤玲（新宿区精神障害者家族会「新宿フレンズ」）  
発表者： 堀合研二郎（Y P S 横浜ピアスタッフ協会）  
渡邊衡一郎（杏林大学医学部精神神経科学教室）  
杉山暢宏（信州大学医学部保健学科実践作業療法学）  
坪井貴嗣（杏林大学医学部精神神経科学教室）

### 【分科会の趣旨】

コンボは、設立時より、科学的な根拠に基づく医療の重要性を訴えてきました。そうした一環として多剤大量処方の是正に関する活動を続けています。本人や家族にはあまりなじみがありませんが、うつ病や統合失調症などにはエビデンスに基づく治療のガイドラインがあります。治療ガイドラインには例えば、治療計画の策定、行うべき検査、薬の使い方など、推奨されるべきエビデンスに基づく治療方法が記載されています。しかし、このガイドラインは、実際の治療現場での拘束力をもつものではありません。また、医療の利用者やその家族にも馴染みがありません。この分科会では…、

——医師むけのガイドラインだけでなく、本人や家族向けのガイドラインがあってもよいこと、

——医師にはガイドラインを理解した上で治療にいかしてもらいたいこと

などがリカバリーにとって有効であることを考える分科会とします。

### ○本人にとってのガイドラインの必要性 堀合研二郎：Y P S 横浜ピアスタッフ協会

堀合氏は当事者の立場から現在、統合失調症治療薬ガイドラインの本人・家族向けの解説作成の委員会に加わっている。その立場から、統合失調症治療薬ガイドラインの概要を説明していただくとともに、ガイドラインは、本人（当事者）・家族もその内容を知っておいたほうがよいことを、わかりやすい事例とともに説明していただいた。

### ○うつ病治療ガイドライン、今後の方向性 渡邊衡一郎：杏林大学医学部精神神経科学教室

昨年日本うつ病学会うつ病治療ガイドラインが発表されたが、現在さらなるアップデートが予定されている。この分科会では、その内容を紹介しつつ、現在全国各地で開催中の若手医師を対象とした講習会についても紹介した。こうした活動を通して、このガイドラインが多くの当事者の方のニーズに合った内容となり、さらには質の高い医療の実現につながればという方向性をご発表いただいた。

### ○日本うつ病学会が目指す治療ガイドライン—必要性、有用性、特殊性と限界も含めて—

杉山暢宏（信州大学医学部保健学科実践作業療法学）

まず最近頻繁に耳にするようになった「診療ガイドライン」とはどのようなものかを説明。そして、臨床医学領域でガイドラインが必要とされるようになった経緯について過去 30 年の動向を振り返っていただいた。次にうつ病学会治療ガイドラインがいかに活用されるか、他の医学領域と比較した場合の特殊性もご説明していただいた。最後にガイドラインの限界や、ガイドラインを利用する上での注意点についても言及していただいた。

### ○当事者・家族向けのうつ病治療ガイドラインの作成を目指して 坪井貴嗣：杏林大学医学部精神神経科学教室

2016 年に日本うつ病学会よりうつ病治療ガイドライン改訂版が発表されたが、当事者やご家族向けの解説

部分はなく、まだまだ発展途上にあるといえる。ご発表いただいた坪井先生は現在、当事者・家族向けのガイドライン作成を目指し活動しているが、その取り組みの具体的内容だけでなく、諸外国のガイドラインとの比較や実臨床現場での治療意思決定のあるべき姿などについてお話しいただいた。

《丹羽大輔（認定 NPO 法人地域精神保健福祉機構・コンボ）》